

聖書箇所： 詩篇30：1～6、11、12

- 1：主よ。私はあなたをあがめます。あなたが私を引き上げ、私の敵を喜ばせることはされなかったからです。(2) 私の神、主よ。私があるに叫び求めると、あなたは私を、いやされました。
- 3：主よ。あなたは私のたましいをよみから引き上げ、私が穴に下っていかないように、私を生かしておかれました。(4) 聖徒たちよ。主をほめ歌え。その聖なる御名に感謝せよ。
- 5：まことに、御怒りはつかの間、いのちは恩寵のうちにある。夕暮れには涙が宿っても、朝明けには喜びの叫びがある。(6) 私が栄えたときに、私はこう言った。「私は決してゆるがされない。」
- 11：あなたは私のために、嘆きを踊りに変えてくださいました。あなたは私の荒布を解き、喜びを私に着せてくださいました。(12) 私のたましいがあなたをほめ歌い、黙っていることがないために。私の神、主よ。私はとこしえまでも、あなたに感謝します。

メッセージ骨子：

<序論> 物事には、今でなければ意味がない、いわゆる「旬」というものがあります。今でなければ、答えが出ない、10年後にたとえ10倍の努力をしてももう遅いというやつです。今日は、神が私たちに用意してくださっている「恵みの人生」を勝ち取るためのコツ、「旬の捉え方」について考えてみます。

<ポイント1> 「逆境にあって落ち込まず、主のみ声を聞く」

1～3節には、一度どん底を見た者の、そこから救い出されたことへの感謝の祈りがこめられています。だから「主をほめ歌え。聖なる御名に感謝せよ」(4)と。しかしこの詩篇が伝えようとしている最大の真理は、個別のうれしいことへの感謝だけではなく、自分の人生は、最後は神の恵みの中に締めくくられるという、根本的なところの確信と、そこから来る感謝にあります。カール・ヒルティエは「試練が来たら、それも神の許しの下にあるということ覚えて、それを静かに迎えましょう。試練がその目的を達したら、敵は放っておいてもなりをひそめてしまうからです。」と言っています。

<ポイント2> 「順境にあって高ぶらず、やはり静かにみ声を聞く」

私たちは何かうまいこといくと、どうしても高ぶる心が出てきます(6節)。これは私たちの持つ、どうしてもない性(さが)であり、また弱さなのではないでしょうか。モーセも40歳まではエジプトの王子として育てられ、俺が俺がの人生を歩んできました。が、それゆえに殺人という大きな過ちを犯し、そののち都落ちします。しかしその荒野で彼は、自分から神へと、人生の主演交代を果たし、出エジプトの偉業も、それゆえに成し遂げられたのでした。これぞ出すぎることも引込みすぎることもない、神主導の人生のバランスの所業なのではないでしょうか。「測り綱は、私の好むところに落ちた。まことに、私への、すばらしい譲りの地だ。」(詩篇16：6)

<ポイント3> 「最後の決算に集中する」

期中はいろいろあっても、大事なのは期末の数字です。ところであなたは人生、黒字で終わる自信をお持ちですか。ルカ12：58－59には「あなたを告訴する者とは、その途中でも熱心に和解に務めなさい。いったん牢に投げ込まれたら、最後の1レプタを払いきるまで出られないからです。」とあります。神を無視し、自己中心の生活をしてきたことが罪であり、私たちの償うべきマイナスだと言うのです。ところでつい先日、うちの三女がイギリスに留学に出ましたが、もし彼女が親父を忘れ、自分ひとりで生きているつもりになったとしたら、父としてこれほど残念なことはありません。かつ「私には父なんていません」と言い出した暁には、いくらかわいい娘でも赦せないでしょう。これが罪であり、天の父を悲しませている最大の原因です。でもまだ間に合う。だから今すぐ悔い改め、天の父と和解しましょうと聖書は訴えます。「罪から来る報酬は死です。しかし神の下さる賜物は、私たちの主イエスキリストにある永遠の命です」(ローマ6：23)

<まとめ> 「華麗なるギャッツビー」をいう映画を観ました。彼は、愛する女性との再会を果たすために、ありったけの財を注ぎ、毎晩大規模なパーティーを開き、招待状を発行し続けます。しかし後は彼女の自由意志。パーティーに来るか来ないかは彼女しだいです。観終わってしばらくして、このアンバランスとも思える投資、これが天の父の愛だと分かったのです。私たちが受け入れるかどうか、まったく未知数なのに、天の父は御子イエスを十字架にかけ、私たちに一発逆転、赤黒反転の道を開いてくださいました。そしてそれを選ぶのは私たち一人ひとりです。「神は、実に、そのひとり子をおあたえになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちをもつためである。」(ヨハネ3：16)

以上